Creative Enzymes®

ヒト由来キマーゼ、再組換え

Cat. No. NATE-0817

Lot. No. (See product label)

はじめに

□明	キマゼは主に肥□細胞に見られるセリンプロテアーゼのファミリーですが、好塩基球顆粒球にも存在します（例：アルファキマゼ mcpt8）。彼らは広範なペプチド分解活性を示し、さまざまな機能に関与しています。例えば、キマゼは寄生虫や寄生虫抗原による刺激に□じて粘膜肥□細胞から放出され、炎症反□を促進します。キマゼはまた、アンジオテンシンIをアンジオテンシンIIに□換することが知られており、したがって高血□や動脈硬化において役割を果たします。炎症における役割のため、喘息治療のターゲットとして調□されています。
用途	キマーゼは、アンジオテンシンIIの生成およびビッグエンドセリンの切断に関与しているとされています。研究によれば、血管の□殖、心筋梗塞、皮膚炎に関与している可能性があります。ヒトキマーゼは、心のリモデリングにおけるTGF-β/Smadシグナル伝達□路に□するパンセックスノトギンセング花抽出物の効果を評価する研究に使用されました。ヒトキマーゼはまた、ストレプトゾトシン処理されたヒトキマーストランスジェニックマウスにおける血糖値と生存を調□する研究にも使用されました。
別名	マスト細胞プロテアーゼI; 骨格筋プロテアーゼ; 皮膚キモトリプシン□プロテアーゼ; マスト細胞セリンプロテアーゼ、キモアーゼ; 骨格筋（SK）プロテアーゼ; キモアーゼ; EC 3.4.21.39; 97501-92-3

製品情報

種	人間
由来	ピキア・パストリス
形態	20 mM Tris、0.8 M NaCl、25% グリセロールの溶液として供給され、pH 7.6です。
EC番号	EC 3.4.21.39
CAS登□番号	97501-92-3
分子量	~30 kDa
純度	>90% (SDS-PAGE)
活性	>40 ユニット/mg タンパク質
濃度	125-400 μg/ml
最適pH	7.5-9.0
阻害剤	大豆トリプシン阻害剤、フェニルメチルスルホニルフルオリドおよびキモスタチン
単位定義	1単位は、pH 7.8および25 °Cで、1分あたり1マイクロモルのN-ベンゾイル-L-チロシンエチルエステル（BTEE）を加水分解します。酵素活性を測定するために使用されるアッセイバッファーには、27 mM Tris-HCl（pH 7.8）、150 mM NaCl、および0.43 mM BTEEが含まれています。

保管・発送情報

保存方法	-20°Cで保管してください